読む

要約するために①

名前

ふくろうのひみつ

夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥、おとぎ話で魔法使いと一緒にいる鳥といえばふくろうです。

でも、本当はおとなしくて、かわいい鳥なんです。みなさんは、そんなふくろうのひみつを知っていますか。

一つ目のひみつは、ふくろうが行動する時間です。ふくろうは、夜になると大変忙しくなります。ふくろうにとっては、夜が昼で、昼が夜なのです。つまり、人間が起きているときは、いつもぼおっとしていますが、夜になると、えさを取ったり、羽をつくろったり、仲間と連絡をとったりと、大忙しになるのです。

二つ目のひみつは、よく動く首です。夜目を覚ますと、右・左・上・下・後ろ・ぐるりと一回りなど、頭をすっきりさせるために、首の体操をしているのです。

三つ目のひみつは、やわらかい羽です。このやわらかい羽は、速く飛んでも音がでません。そのおかげで、えさをとるとき少しも気付かれずに、えものに近付くことができるのです。

わたしたちがおきている昼間は、いつもぼおっとしているふくろうにも、このようなひみつがあるのです。夜、大忙しのふくろうに会いにいくと、もっといろいろなひみつが見つかるかもしれませんね。

○ 上の文章を形式段落に分けると、六つの形式段落に分けられます。それぞれの段落の中で、一番大切な一文はどれでしょう。上の文章から、それぞれ抜き出しましょう。

①	②	③	④	⑤	⑥

読む

要約するために②

名前

ふくろうのひみつ

夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥、おとぎ話で魔法使いと一緒にいる鳥といえばふくろうです。

でも、本当はおとなしくて、かわいい鳥なんです。みなさんは、そんなふくろうのひみつを知っていますか。

一つ目のひみつは、ふくろうが行動する時間です。ふくろうは、夜になると大変忙しくなります。ふくろうにとっては、夜が昼で、昼が夜なのです。つまり、人間が起きているときは、いつもぼおっとしていますが、夜になると、えさを取ったり、羽をつくろったり、仲間と連絡をとったりと、大忙しになるのです。

二つ目のひみつは、よく動く首です。夜目を覚ますと、右・左・上・下・後ろ・ぐるりと一回りなど、頭をすっきりさせるために、首の体操をしているのです。

三つ目のひみつは、やわらかい羽です。このやわらかい羽は、速く飛んでも音がでません。そのおかげで、えさをとるとき少しも気付かれずに、えものに近付くことができるのです。

わたしたちがおきている昼間は、いつもぼおっとしているふくろうにも、このようなひみつがあるのです。夜、大忙しのふくろうに会いにいくと、もっといろいろなひみつが見つかるかもしれませんね。

○「要約するために①」で抜き出した文章を次のことに注意して要点にまとめよう。

・主語、述語、キーワード（大事な言葉）を見つける。
・文末を体言止めにする。
（例えば～のひみつ。～こと。～ふくろう　など、ものの名前などで終わる言い方を体言止めといいます。）

①	②	③	④	⑤	⑥

読む

要約するために③

名前

ふくろうのひみつ

夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥、おとぎ話で魔法使いと一緒にいる鳥といえばふくろうです。

でも、本当はおとなしくて、かわいい鳥なんです。みなさんは、そんなふくろうのひみつを知っていますか。

一つ目のひみつは、ふくろうが行動する時間です。ふくろうは、夜になると大変忙しくなります。ふくろうにとっては、夜が昼で、昼が夜なのです。つまり、人間が起きているときは、いつもぼおっとしていますが、夜になると、えさを取ったり、羽をつくろったり、仲間と連絡をとったりと、大忙しになるのです。

二つ目のひみつは、よく動く首です。夜目を覚ますと、右・左・上・下・後ろ・ぐるりと一回りなど、頭をすっきりさせるために、首の体操をしているのです。

三つ目のひみつは、やわらかい羽です。このやわらかい羽は、速く飛んでも音がでません。そのおかげで、えさをとるとき少しも気付かれずに、えものに近付くことができるのです。

わたしたちがおきている昼間は、いつもぼおっとしているふくろうにも、このようなひみつがあるのです。夜、大忙しのふくろうに会いにいくと、もっといろいろなひみつが見つかるかもしれませんね。

○　上の文章を要約してみましょう。「要約するために②」でまとめた要点をつないで、物語のあらすじのように書きましょう。